

IV-42

遠野市におけるエコミュージアム計画策定のための
エコシンボルに関する調査研究

岩手大学 正 員 安藤 昭 岩手大学 正 員 赤谷 隆一
 岩手大学 学生員 〇原田 夏樹 岩手大学 正 員 南 正昭
 岩手大学 学生員 小笠原 崇 遠野市立博物館 似内 邦雄

1. はじめに

遠野市は、民話という地域資源に着目し、遠野市の暮らしや民話の生活を彷彿させる諸政策に取り組んでいる。しかしながら、観光地の多くが抱える「開発による歴史や文化の破壊、環境悪化」といった問題は、遠野市においても懸念されており、更なる観光地化は商売意欲向上による弊害、自然破壊が生じる恐れもある。したがってこれらの課題の解決や将来への風土の継承・保全を重点としたまちづくりを考える上で、エコミュージアムの理念を導入することは意義があると思われる。遠野市におけるエコミュージアム計画策定にあたり、サテライト（地域遺産）となりうるものを把握するため、遠野市の風土イメージに関する基礎調査を行った。

また、自然豊かな遠野市にはエコミュージアムを導入する上で重要となる自然遺産が多々あると考えられるので、エコミュージアムの構成要素となりうる動植物と遠野市民の自然環境への意識を把握することを目的として、本研究では動植物に関する認知度調査を行った。

2. 遠野市の概要

岩手県遠野市は、人口28,132人、世帯数8,968世帯（平成13年10月1日現在）、面積660.38km²（東西33.5km、南北38.2km）、岩手県の東南部に位置し、周囲は1,000m前後の山岳がちなり、それらの間に700m内外の高原群がちな。岩手県内でも寒冷地帯に属し、寒暖の差が激しい盆地特有の気候であり、降水量は年間を通じて約1,000mm程度であり、11月中旬には初雪がみられるが根雪になるのは1月上旬であり、積雪量は平坦部で10cm程度である。

3. 調査の概要

遠野市の風土イメージを把握するため、各種調査を行った。全調査概要を図-1に示す。言語記述法に関しては、同一被験者に調査を繰り返すDelphi法を用い、意見の収斂をはかった。言語記述調査内容は「遠野市をイメージしたとき、心に鮮やかに思い浮かぶもの（自然的なもの・歴史的なもの・祭り・イベントなど何でも結構です）を、思いついた順にできるだけ多くあげて下さい。」である。

本研究では、エコミュージアムの構成要素となりうる動植物と遠野市民の自然環境への意識を把握することを目的として、文献といわてレッドデータブックを参考にして、動植物の専門家からの聞き取り調査により得られた遠野市に生息し、かつ遠野市において重要だと思われる

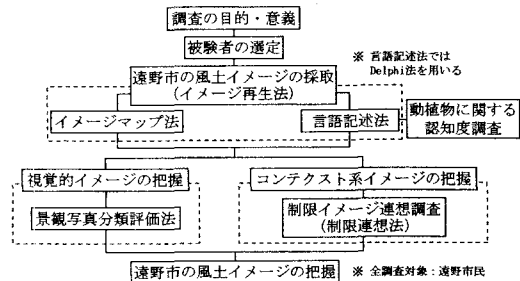


図-1 全調査概要

表-1 調査実施概要

調査名	動植物に関する認知度調査	言語記述調査（2回目）
調査方法	訪問配布、郵送により回収	郵便調査法
調査期間	平成15年9月	平成15年11月
配布票数	1466票	421票
有効票（有効回収率）	384票（26.2%）	273票（64.8%）

動植物（鳥類；33種、昆虫類；30種、哺乳類；14種、魚類；14種、爬虫類；6種、両生類；9種、植物；35種）を調査票に挙げ、「知ってる動植物」と「遠野市で見たことがある動植物」について認知度調査を行い、言語記述調査（2回目）の調査結果と比較し考察することとする。表-1に調査実施概要を示す。

4. 調査結果および考察

(1) 鳥類について

鳥類についての調査結果を図-2に示す。認知度が高いものから順に挙げると、ハクチョウ（92.71%）、カッコウ（87.76%）、キジ（87.76%）、ヤマドリ（87.50%）、フクロウ（86.20%）であった。ハクチョウ、カッコウ、キジ、フクロウは形態や鳴き声が特徴的な鳥であるからだと考えられる。しかし、ヤマドリに関しては遠野市において昭和46年に市の鳥とされ、言語記述調査（2回目）では再生順位1位（再生率；78.02%）のしし踊りにおける衣装の飾りつけにヤマドリの尾が用いられるなど、遠野市においてなじみが深い鳥であるからだと考えられる。言語記述調査（2回目）においてヤマドリは再生順位67位（再生率33.70%）、ハクチョウは再生順位63位（再生率；23.08%）であった。以上の結果よりヤマドリとハクチョウは遠野市において重要な鳥だと考えられる。

(2) 昆虫類について

昆虫類の調査結果を図-3に示す。認知度が高いものから順に挙げると、カメムシ（83.85%）、アブラゼミ（79.43%）、ミンミンゼミ（78.39%）、キリギリス（76.56%）、ゲンゴロウ（76.04%）であった。これは、形態や

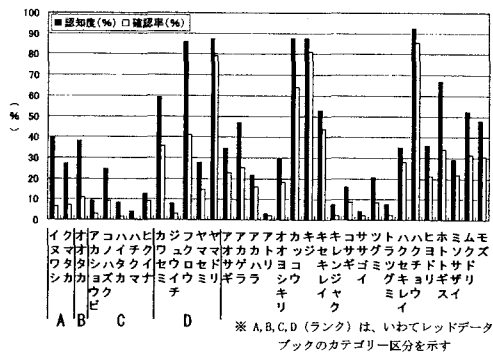


図-2 鳥類調査結果

$\text{認知度 (\%)} = (\text{知っている人数} / \text{全被験者}) \times 100$
 $\text{確認率 (\%)} = (\text{遠野市で見たことがある人数} / \text{全被験者}) \times 100$

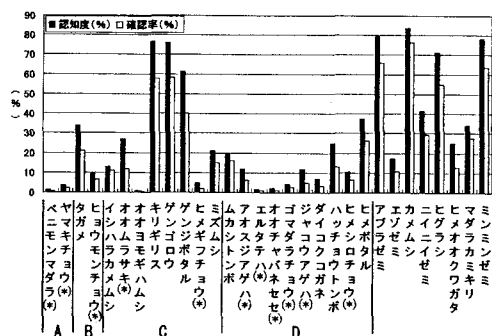


図-3 昆虫類の調査結果

鳴き声が特徴的であるからだと考えられる。チョウ目(*)の認知度に注目すると、オオムラサキの27.08%が最高で、すべてそれより低い結果となった。チョウ目に関しては遠野市民は各々の名前を知らないと考えられる。なお、言語記述調査(2回目)において、再生順位57位(再生率; 20.88%)でトンボという結果であったが、ムカシトンボやハッチョウトンボの認知度、確認率が低い結果となったことから、トンボについては個々の種類について特に意識していないことがわかった。

(3) 植物について

植物の調査結果を図-5に示す。認知度が高いものから順に挙げると、ススキ(92.19%)、ヤナギ(91.67%)、イチイ(88.28%)、カタクリ(87.50%)、フクジュソウ(86.72%)、ヤマブキ(84.11%)、アカマツ(83.33%)、オニグルミ(81.25%)、アツモリソウ(80.99%)であった。イチイについては遠野市の木とされていることや、言語記述調査(2回目)において再生順位108位(再生率; 26.01%)の早池峰神社に岩手県指定天然記念物である夫婦イチイがあるからだと考えられる。カタクリやヤマブキは特徴的な花をつけるからだと考えられる。絶滅の危機が増大している種(Bランク)のフクジュソウに

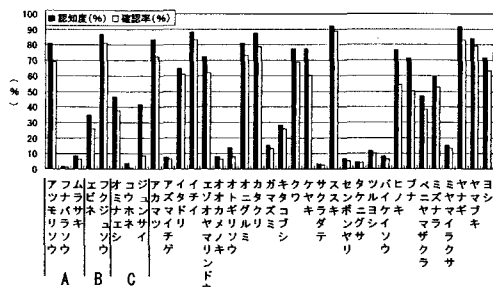


図-5 植物の調査結果

ついて、認知度が86.72%、確認率が81.25%と高い値となった。これは毒草であるという特徴や観賞用に栽培されていることなどによると考えられる。アツモリソウは絶滅の危機に瀕している種(Aランク)であるにもかかわらず、認知度が80.99%、確認率が69.27%と高い値となった。アツモリソウは遠野市でカッコバナという愛称で呼ばれており、ラン科の中で人気があり、人工栽培が行われているからだと考えられる。

また、認知度72.40%、確認率61.98%のエゾオヤマリンドウはエゾリンドウの高山型であり、リンドウ(エゾリンドウ)は遠野市において市の花であるのだが、遠野市の鳥と木であるヤマドリやイチイに比べ認知度がやや低い結果となった。なお、言語記述調査(2回目)において、イチイは再生順位46位(再生率; 38.10%)、アツモリソウは再生順位65位(再生率; 34.07%)、リンドウは再生順位103位(再生率; 27.11%)、ススキは再生順位117(再生率; 24.54%)であった。以上の結果よりアツモリソウ、イチイ、リンドウ、ススキが遠野市において重要なものと考えられる。

5. まとめ

本研究から得られたことは次の通りである。

- (1) 認知度調査結果により、特徴的な動植物の認知度は高いが、そうでないものは認知度が低いことがわかった。このことから、遠野市民の動植物に関する意識があまり高いとはいえないことがわかった。
- (2) 鳥類ではヤマドリ、ハクチョウ、植物ではアツモリソウ、イチイ、リンドウ、ススキが遠野市において重要な動植物であることがわかった。
- (3) 鳥類では、(いわてレッドデータブックのカテゴリー区分) A、B、Cランク、昆虫類はA、Bランク、植物はAランクのものが遠野市で見たと答えた人が全般的に少ない結果となった。この結果より、遠野市においても希少な動植物は簡単に見ることが出来ないことがわかった。

今後は以上の結果を考慮し、遠野市におけるエコミュージアムの計画策定を行う予定である。

【参考文献】

- 1) いわてレッドデータブック、2003
- 2) 遠野市植物誌編集委員：遠野市植物誌、1987